

第7回女子懇親会が開催されました...

日 時 7月4日(土)12:00~15:00
場 所 国分寺丸井9階 中華料理「華琳」
会 費 各自注文実費
参加者 白井・大竹・藤崎・牧野・姉崎・荒木(6名)
お話担当 白井さん「絵の話」

今回の参加者は6名と少し少なかったのですが、円卓を囲んでの楽しい食事会でした。
2ヶ月のご無沙汰のごあいさつの後は...

- ① リンパ液の流れの悪さが病気を誘発する→簡単なマッサージのご指導がありました。
- ② PCをご主人と共有していらっしゃったお二人の話→色々問題がありますね。(^-^)
それにしても、みんなガラ系? PC出来ない? 小平早稲女はメカに弱い?? (-_-)
- ③ 小平稲門会の新旧役員の苦労話→未来はもっと楽しい小平稲門会になりそうですね。
- ④ 今日一番盛り上がったのは振り込め詐欺の話でした。皆さん電話を受けてもしっかり対応しておられました。
アメリカでは絶対騙されないでしょうとのお話には、息子に甘い日本の母親の姿が浮き彫りに...これからも絶対騙されないようにしましょうね。



←白井さんご持参の資料の数々→

★ さて食事の後は、お待ちかねの白井さんの「絵のお話」でした。

1975年のご主人のモスクワ支局長への転勤に1年遅れソ連(現ロシア)へ、その後2年半をそこで過ごされたそうです。今と違い当時のソ連は、外国人には様々な規制と監視が行われ、外国人は門番が見張る団地で生活しているような状況だったそうです。そんな中、白井さんはユダヤ系ロシア人の画家イリア・リュボーピッチ氏と知り合い、帝政時代の雰囲気が残る街に住む画家の家に絵を習いに行く機会に恵まれました。壁一面にはイコンがかけられ、テーブルには古い時計が、窓の外は金の秋(紅葉は黄一色なのでこう言います)、玉ねぎの形をしたクーポルの建物が見えて...

この2年半の経験が、白井さんの絵の世界を育み、絵を描く習慣、喜びを育てて下さったのだそうです。帰国後にはロシア イコンを偲びつつ、イタリアルネサンス期のテンペラ画による模写、創作。画材の勉強のため日本画材による創作に時間を過ごされたそうです。ロシアの風土で育った感性は、絵の中に溢れ出てくるようで、見せて頂いた絵はとてもエキゾチックで不思議な世界でした。

ギリシャ正教のイコンの話、その後の絵画の歴史、イタリアのテンペラ画やその画材、制作されたミニチュールを見せて頂きながら、日本の画材の話まで参考書、資料を見ながらのお話はとても面白く、時間を忘れての楽しい午後のひとときとなりました。



熱心にお話を伺うみなさん



白井さんの作品2点



次回の女子会開催は 9月19日(土)12時~2時半 国分寺「華琳」
お話担当は大竹さん、「小平の話」です。